

逆境に負けない 強く優しい心を



尚友会会長

岸本 大三郎

ロシア軍の爆撃や戦車の侵攻がリアルタイムで映像報道されるとは本当に信じられない思いです。自分の「平和ボケ」を大いに反省させられています。ウクライナの原子力発電所を支配下に置くとか、戦略核兵器、生物化学兵器の使用をちらつかせるなど「世界大戦」や「世界の終末」を想起させるような状況となっています。一方、日本国内の新型コロナ第六波は鎮静化が見られるものの足踏み状態が続き、より感染力が強いオミクロンXEなどの新変異株の出現に不安を感じています。今まで通りの日常に戻れないと辛さ、先行きの見えない苦しさに皆さんに耐え忍んでいるのが実情ではないでしょうか。

学園においては教職員の皆様、学生の皆様が逆境に屈することなく学習の成果を上げており、心からエールを送りたいと思います。進学成績も例年通りの素晴らしい成果を見せて頂けることと大いに期待しています。卒業生の皆様もどうぞ自分を信じ、逆境に負けない強く優しい心を持ち続けて頂きたいと思います。

三年連続となつてしまいますが、尚友会の評議員会はメンバーの皆さんに委任状提出をお願いし、限られた役員のみ出席して四月三十日に開催致しました。六月のホームカミングデイも中止せざるを得ないという結果となりました。全体忘年会も多数の皆様の参加に見通しが立たず、現時点では中止と致します。新型コロナウイルスの鎮静状況をモニターしながら開催が許される状況となれば新たな方式での実施を皆様に提案できればと考えています。異例申し上げます。会員の皆様におかれましても、体調に十分お気を付けていただくようお願いいたします。

最後に、昨年お願いしました専門の著作物を寄贈していただき方々、有難うございました。

ご挨拶



金蘭千里学園 理事長・学園長

辻本 賢

令和元年の冬に報じられた新型コロナウイルス感染症(COVID19)は、日本はもとより世界中で急激に猖獗を極めるとともに、新種の株に変異していき、私たちの当たり前であつた日常の當為を正常に営むことができなくなつて三年がたちます。

緊急事態宣言、まん延防止等重点措置、ワクチンの接種回数率の向上により、感染者数が減少し、手指消毒マスク、距離、換気にによるウイズ・コロナに移行しています。本校でも、一時毎日のように陽性者が出了もの濃厚接触者はなく平常授業による教育活動を継続していますが、日本製ワクチンや治療薬が待たれます。

私ども教育に携わる者は、一緒に話す、一緒に笑う、一緒に学ぶ、一緒に食べるなど人間が人間であるためのコミュニケーションの基盤が崩壊している今、教育の本質を再確認しています。

併せて、国際平和の視点から、ウクライナ戦争が教えていることを現実的に考えなければならないと思っています。

今年度の入学式は、中学校、二三四名、高等学校、一八六名、計四一〇名の入学生と保護者の皆様と共に、計八二〇名で実施しました。高三生徒は今年も卒業証書日付通り三月一日に一七一人が卒業し、尚友会に入会いたしました。どうぞ宜しくお願ひします。

日頃は、卒業生の皆様には、理事会、評議員会を通じて経営面で、また講演や内科検診、歯科検診など、教育活動に多大のご協力、ご支援を頂いています。今年も残念ながら、ホームカミングデイ、関東支部での同窓会の中止が決定され、なかなか皆さまとお会いして楽しく過ごす機会がなくなり寂しい限りです。私は学校説明会の日には、理事長室でお待ちしています。お子様の教育こそがわが学園の使命です。

二年前から、私自身は大阪私立中学校・高等学校教育のオピニオン・リーダーとしての役割を担い、その任務を果たすべく活動しています。

最後に、昨年お願いしました専門の著作物を寄贈していただき方々、有難うございました。

ご挨拶



金蘭千里中学校・高等学校 校長

大中 章

尚友会の皆様、日頃よりお力添えをいただき誠に有難うございます。ご存知のように本校は、独自の教育を行う古き良き金蘭千里から、様々な行事の導入、創立五十周年改革を経て、学校のICT化、各種プレゼンテーション大会への参加など、新たなチャレンジを続けています。そして、本校での教育活動を通して、自ら考え、自ら判断し、自ら決定し、自ら行動する、すなわち自律する力を身に付けさせたいと考えています。

この一年もコロナ対応に追われましたが、それについては別頁をご覧下さい。昨年度、国内留学プログラムとオンライン自習システムを新たに導入しました。国内留学プログラムは中三から高二を対象とし、高一でのイギリス海外研修に参加した生徒、参加できなかつた生徒の両方を対象として、英語力のより一層の向上を目指すもので、最大の特徴は、少人数で英語漬けの環境を提供することです。アンケートによると、参加生徒の満足度はかなり高かつたようです。また、オンライン自習システムは、生徒のより一層の学力向上を目指し、これまでも実施されたきた教員による放課後の補習や追試、個別指導等に加えて、主体的に学習する習慣が不足している生徒への夕方以降のサポー卜、分からぬところを適宜質問できる環境の夕方以降の提供などを目的として開始しました。入室時間がが多く成果を上げている生徒がいる一方、入室時間が少なく上手く利用できていない生徒もありますので、引き続き指導を継続していく必要があります。

長引くコロナの影響もあつてか、心なしか、生徒にストレスがかかっているようにも感じます。今後も、目の前の生徒を大切にし、一人一人に寄り添っていくという本校の基本的な姿勢を着実に実践していくことが肝要であると考えています。

2022年5月 Vol.18